

## 令和元年度第3回千葉市都市文化賞表彰選考部会 会議録

- 1 日 時： 令和2年2月15日（土）午後1時30分～午後1時50分
- 2 場 所： 千葉市生涯学習センター 2階ホール  
（千葉市中央区弁天3丁目7番7号）
- 3 出席者： （委員）  
栗生委員、田口委員、大内委員、霜田委員、松浦委員、八木委員、  
山崎委員  
（事務局）  
熊谷市長、青木都市部長、佐藤都市景観デザイン室長、小谷主査、  
太田主査、日色主任技師、花輪主任技師、原田主任主事、  
田中主任主事、佐々木主任技師、長瀧主任技師、野田技師

### 4 次 第

- (1) 2019年度千葉市都市文化賞表彰式

### 5 会議録要旨

- (1) 2019年度千葉市都市文化賞の表彰状の授与を行った。
- (2) 2019年度千葉市都市文化賞の総評を行った。

### 6 会議録

#### 事務局

お待たせいたしました。ただ今から、「千葉市都市文化賞フォーラム2019」を開催いたします。

本日はお忙しい中たくさんの方々にご来場いただきました。

誠にありがとうございます。

私は本日の司会進行を務めます、千葉市都市景観デザイン室の佐藤でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

千葉市都市文化賞は、景観法の制定や都市景観条例の改正を契機として、より幅広く、魅力ある景観形成を実現するため、地域の景観を守り育てる活動などを対象とした「景観まちづくり部門」、良好な街並みを構成している、広告物を対象とした「景観広告部門」、都市景観の形成に寄与した、優れた建物を対象とする「建築文化部門」の3部門が設けられました。

平成23年から毎年表彰を行い、今年で9回目を迎えることができま

した。

なお、本日開催の都市文化賞フォーラムは、昨年度から1年おきに開催することとしたため、昨年は開催をしておりません。今回は2018年度の受賞作品と合わせた開催とさせていただきます。

なお、昨年度の表彰式は市庁舎内で既に執り行わせていただいております。

それでは、プログラムに従いまして、2019年度千葉市都市文化賞の表彰式を始めます。

まず、主催者を紹介いたします。

千葉市長 熊谷 俊人でございます。

次に受賞作品を選考しました、

「千葉市 景観総合審議会 表彰選考部会」の委員の皆様をご紹介します。

栗生 明 部会長でございます。

田口 敦子 副部会長でございます。

大内 啓子 委員でございます。

霜田 亮祐 委員でございます。

松浦 健治郎 委員でございます。

八木 健一 委員でございます。

山崎 誠子 委員でございます。

なお、菊竹 雪 委員は、本日は欠席でございます。

以上、8名の委員の方々に、選考をお願いいたしました。

それでは「賞状」の授与に移ります。

受賞された作品名と受賞者の方をご紹介しますので、その場でご起立をお願いいたします。

賞状の授与は、ステージ上で千葉市長から行います。

今回、グランプリの受賞となりましたのは「椿森コムナ」です。

施主は、株式会社拓匠開発様です。

代表取締役 工藤 英之 様 ステージへお上がりください。

こちらの作品は、千葉公園に隣接する住宅地の斜面緑地、屋敷林跡の民有地を秘密基地のような非日常空間に演出し、暫定的にパブリックスペースとしてまちに開放しています。この取り組みは千葉市の都市文化の魅力化に貢献していると高く評価され、景観まちづくり部門、景観広告部門など全ての分野で優れていることからグランプリの受賞となりました。

(表彰状の授与)

おめでとうございます。

続きまして、景観まちづくり部門 優秀賞「YohaS」です。  
団体名は 株式会社拓匠開発様と、花びと会ちば様です。  
代表しまして、株式会社拓匠開発 代表取締役 工藤 英之 様  
ステージへお進みください。

こちらの作品は、千葉公園で6月に行われる「大賀ハスマつり」の  
夜の部として行われているイベントです。

池を使ったプロジェクションマッピングや水上パフォーマンスなど、  
住宅街の都市公園の大胆な活用を行い、選考委員からは、都市公園  
活用のお手本として高く評価をされました。

おめでとうございます。

続きまして、景観まちづくり部門 優秀賞「堂谷津の里」です。

団体名は 特定非営利活動法人バランス21様です。

代表理事 佐藤 總子 様ステージへお上がりください。

こちらの作品は、地元の方々と、他の地域からの参加者が、一つの  
谷津を共有し、そこで行われる多様な生産的活動を契機とした、  
新たな里山の再生活動として評価をされました。

おめでとうございます。

続きまして、景観広告部門 優秀賞「幕張ベイパークのサイン」  
です。

こちらは2つの作品を併せて表彰することとなりましたので、2名  
の方にご登壇頂きます。

1つ目の施主は、幕張新都心若葉住宅地区街づくりグループ様です。

設計は、株式会社熊谷組一級建築士事務所様と

光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所株式会社様です。

施工は、株式会社熊谷組様です。

設計施工は、西武造園株式会社様です。

2つ目の施主は、イオンリテール株式会社様です。

設計施工は、株式会社福田組様です。

それぞれを代表しまして、

幕張新都心若葉住宅地区街づくりグループの代表企業である

三井不動産レジデンシャル株式会社 執行役員千葉支店長

各務 徹 様

イオンリテール株式会社 常務執行役員 南関東カンパニー支社長

湊 博昭 様、ステージへお上がりください。

こちらの作品は、地区独自のルールのもとに設置された、人々を迎え  
るゲートサインや内吊看板などの店舗サインが質の高いデザインで、  
建物周りをすっきりと洗練されたものとし、新しい街への期待感を

高めるものとして評価をされました。

おめでとうございます。

続きまして、建築文化 部門 優秀賞 「都賀の家」です。

施主は、H・M 様

設計は、株式会社日本設計様と

設計施工は、須藤建設株式会社様です。

代表しまして株式会社日本設計 主管 三好 礼益 様、

ステージへお上がりください。

こちらの作品は、住宅街の中に建つ一戸建て住宅になります。

杉板下見貼りの外観が個性的ですが、内と外の見え方の関係を窓を通し慎重に解いたことで、角地にたつ住宅の景観、周辺との調和の好事例として高く評価をされました。

おめでとうございます。

続きまして、建築文化部門 優秀賞「PSR 矢作町」です。

施主は エーエスキャピタル インベストメント株式会社様

設計は 株式会社ツズキオフィス様

施工は 横田建設マネジメント株式会社様です。

代表しまして、エーエスキャピタル インベストメント株式会社

代表取締役 鈴木 淳 様、ステージへお上がりください。

こちらの作品は、崖地であることや三角形など、住宅地としてネガティブに捉えられる敷地の特徴とポジティブに向き合い、「擁壁の中の家」という新たな集合住宅のランドスケープを創出している点など高く評価されました。

おめでとうございます。

続きまして、建築文化部門 優秀賞「千葉駅・千葉駅ビル」です。

施主・設計は 東日本旅客鉄道株式会社様

施主は 株式会社千葉ステーションビル様

設計は 株式会社 JR 東日本建築設計様

施工は 大成建設株式会社様です。

代表しまして、東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所

課長 高橋 健 様、ステージへお上がりください。

こちらの作品は、JR 千葉駅となります。千葉駅コンコースに入るととても暖かい雰囲気に包まれます。明るく開放的な空間に落ち着いた色合いの木が随所に使用され、ガラスや金属類といった建材類と見事に調和している点や、隣接するペリエ千葉「えきうえひろば」の利便性はもちろん、心安らぐ空間となっている点が評価されました。

おめでとうございます。

続きまして、建築文化部門 優秀賞

「坂口電熱千葉ロジスティックスセンター」です。

施主は 坂口電熱株式会社様

設計・施工は、株式会社竹中工務店様

代表しまして、坂口電熱株式会社 代表取締役 蜂谷 真弓 様、  
ステージへお上がりください。

この作品は、電熱製品の開発・製造・販売をてがける企業の施設です。  
電熱製品の素材から連想される建材を内外の仕上げに使用し、ローコストながら意匠に配慮しています。

また、緑が多く残る周辺の自然環境を生かし、建物全体が環境との融和を図っている点が秀逸であると評価されました。

おめでとうございます。

賞状の授与は以上となります。受賞された作品の関係者の皆様、  
あらためまして、誠におめでとうございます。

会場の皆様も、盛大な拍手を もう一度お願いいたします。

それでは表彰式の最後に、

都市文化賞 表彰選考部会の部会長をつとめていただきました、

栗生 明 様より総評をいただきたいと存じます。

栗生様、ステージ中央へ、よろしく願いいたします。

栗生委員

まずは受賞された皆様にお祝いを申し上げたいと思います。誠におめでとうございます。

千葉市都市文化賞は前身の千葉市優秀建築賞から引き継ぐ際に、もっと景観・環境に重点を置くべきではないかという観点から、最初は都市景観賞という名前をもっていました。ところがこの名前は京都市や福岡市にもありましたので、更に深みのある賞にしようという議論し、人間の存在や人々の暮らしが感じられる都市文化賞という賞を設立しました。これは私の知る限りでは千葉市にしかない先進的な賞だと思います。そして、これからの社会に都市文化というキーワードは非常に重要だと思います。例年この賞の審査をする際に、都市文化とは何かという議論をずっと続けてきました。毎年新しい作品が出る度に、我々審査員も勉強しながら、こういったものを都市文化として推奨していくべきではないかという議論を積み重ねながら、今日に至っているわけです。今日受賞される方々もいろんな意味で都市文化に寄与していると言えます。お配りしているパンフレットを見て頂くと我々審査員の想いが書いてあるので、是非見て頂きたいと思います。

今からちょうど100年前の1919年、現在のドイツにあたるワイマール共和国に「バウハウス」という先進的なデザイン学校が開校されました。その創設理念として「芸術と技術の統合」と「デザインの産業化」があげられます。

現在、我々のまわりにあふれている「モダンデザイン」の源流はここにあります。しかし近頃、私が建築デザインの審査員としてかかわった建築作品からは、バウハウスの教育とは異なる新しいデザインの傾向を感じ取ることがたびたびありました。大きく3つの傾向があげられます。

第一に「改変のデザイン」と呼べるものです。

「新築」ではなく、「増築」「改修」「コンバージョン（機能変更）」といった作品です。既存の建築を丁寧に読み解き、新しい機能を付与するといったものです。

第二に「環境のデザイン」があげられます。

建築の「外部空間」、さらには建築を取り巻く「自然」を、建築と等価なデザイン対象として扱った作品です。ランドスケープデザインが浮上してきました。

第三に「まちづくりのデザイン」があげられます。

複数の建築で構成する「町並みのデザイン」、さらにはまちの活性化を意図した地域イベントなど「ソフトのデザイン」も含まれます。これらの3つのデザインの流れは、バウハウスが見落としてきた、あるいは重要視してこなかったデザイン分野だと思われます。

よく考えてみると、これらはバウハウスがめざした「デザインの産業化」にはそぐわない分野です。資本主義社会において短期的にはビジネスになりにくい分野と言い換えることもできます。しかし、「文化」は直接的、短期的には産業と結びつかないところから発芽するものです。そして、そうした文化の需要に応じて技術が後追いし、産業に結びついていきます。

今回の応募作にもこうした3つのデザイン傾向が読み取れるものが少なからずありました。

グランプリを受賞した「椿森コムナ」は、新しい都市文化の萌芽を強く感じさせました。住宅地の中に残された屋敷林跡を、地域資産として地域住民と有効活用を図ったものです。既存のイチョウやカシの樹上に、廃材を活用して作られたツリーハウスやタイニーハウス。さらに移動可能なテント小屋やキッチンカーやトイレなどによって生み出される祝祭的な空間は、失われつつある地域コミュニティの再活性化に大きく寄与していると思われます。椿森コムナがああ地域のうねり

となって地域の活性化が広がっていくと良いと思いますし、行政もこういった地域コミュニティの活性化を応援して頂けたらと思います。このような新しい提案をして新しい地域コミュニティを作っていく事が重要ではないかと思います。  
最後に、受賞された皆様、本日は誠におめでとうございます。

事務局

栗生様、ありがとうございました。  
以上をもちまして、2019年度千葉市都市文化賞表彰式を終了いたします。皆様、ありがとうございました。

－ 以上 －  
午後1時50分 閉会